内川

内川小学校だより
卒業号
2014．3．20．THU
TEL:46-2705　FAX:46-2107

教育目標
☆生き生きとした内川の子ども
・進んで学び、よく考える子ども
・思いやりのある、やさしい子ども
・元気で、たくましい子ども

# 第１３６回卒業証書授与式　式辞！

教室を吹き抜ける風に、校庭の木々の芽吹きに、春の訪れを感じる今日の佳き日。ご来賓各位のご臨席を賜り、保護者の皆様と内川小学校の児童、教職員が一堂に会し、チーム内川で作る最後の授業第１３６回卒業証書授与式を挙行できますこと、この上もない喜びを感じます。

内川小学校を旅立つ３名の皆さん、卒業おめでとうございます。ただ今、一人一人に卒業証書をお渡ししました。担任の本田先生が心を込めて呼ぶ名前に「はい」と大きな声で返事する声に、全員が耳を傾け、卒業証書を受け取る姿をじっと見つめて、「おめでとう」「よくがんばったね」「立派な中学生になってください」という眼差しで祝福と激励をしてくださいました。卒業証書には、皆さんの６年間の生活の歴史と努力が充ち満ちています。また、ご家族や先生方の限りない愛情も込められています。大切にしてください。

皆さんは、内川小学校の児童としてお家の方に手を引かれ、初めて校門をくぐった平成２０年４月６日の入学式からの６年間、心も体も立派に成長し、本校を巣立っていきます。特に最上級生としての本年度は、緑の少年団の活動が評価されての「県教育長賞」受賞、運動会での応援合戦、「かがやけ　チーム内川　心を一つに　がんばろう」をスローガンにして取り組んだ学習発表会、日本画家の福王子一彦さんとの「日本画教室」、三遊亭遊馬師匠との「落語教室」６年生３人のおそばを食べる芸は忘れられません。３学期には「だれかの笑顔のために、他の人のために何かできないか」を真剣に考え、１月の宿泊学習では下級生の面倒をよく見てくれました。３人は常に「内川の顔」として活躍しました。様々な活動を通して、多くの人に支えられて成り立つ日々の学校生活への感謝の気持ち、そして、今自分に出来ることに全力を尽くすことの大切さ、チーム内川で支え合い、力を出し合って頑張っていくことのすばらしさを学ぶことができました。

月に一回の全校集会ではいろいろなメッセージを送ってきました。
【四月】星野富弘さんと豊田智子さんの「はじめの一歩」。
【七月】東日本大震災の南三陸町職員の遠藤末希さんにふれて「いのち・生きる」。
【十月】「感謝・ありがとうの気持ちをこめて」。
【一月】「いのちをいただく」の絵本を通して「感謝して食べる」。
【三月】「相田みつをにチャレンジ」で好きな詩を選んで色紙にかきました。

卒業にあたり、最後のメッセージを送ります。
【浅田真央選手】
ソチオリンピックで感動のフリーの演技を見せた浅田真央選手についてお話しします。

十九歳で出場したバンクーバーオリンピックでは、女子史上初の３度のトリプルアクセルを成功させるも銀メダルで悔し涙を流しました。

ソチオリンピックまでの４年間は、一からスケーティングを見直し、ジャンプを矯正、表彰台にすら上がれないつらい時期もありました。でも、自分の夢に向かってやるべきことをしっかりやる浅田選手がいつもいました。

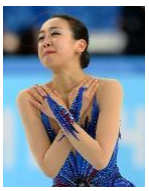
そして、浅田真央選手の集大成として臨んだソチオリンピック。

ショートプログラムはまさに悪夢でした。
３つのジャンプはことごとく失敗し、まさかの１６位。メダルは絶望的。でも真央選手は強いアスリートでした。誰もが諦めかけていた中、最後まで挑戦する姿勢を崩しませんでした。

フリーでは、トリプルアクセルを成功せる最高の演技で自己ベストを更新する点数を出しました。

演技を終えると感極まって涙を流しました。割れんばかりの歓声に包まれます。最後まで諦めずに完璧な滑りを見せた真央選手に会場では涙をぬぐって感激する人もいました。

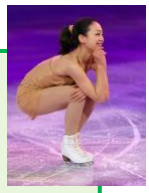
「わたしが目指してきたのは、昨日のような演技ではなくて、今日のような演技。これが自分なんだとなと受け止めています。」（真央）
ようやく見せた真央スマイル。



「フィギュアスケートは勝った、負けたではないと思うんです。生き様をどう氷の上でみせるか。それがフィギュアではないですか」。２年前に亡くなった真央選手のお母さんの言葉です。
浅田真央選手は、まさに「生き様」を私たちに見せてくれました。

勝つために全力を尽くすのは、じつはやさしいのです。負けと決まったあとに、全身全霊を込めるのは誰にでもできることではありません。その強い心に私たちは感動したのだと思います。

浅田真央選手の「生き様」にふれた皆さんへ送る言葉。「道」



「道」
自分には自分に与えられた道がある。どんな道かは知らないが、
ほかの人には歩めない。
自分だけしか歩めない、二度と歩めないかけがえのないこの道。
広いときもある。せまいときもある。のぼりもあればくだりもある。
道をひらくためには、まず歩まねばならぬ。
心を定め、懸命に歩まねばならぬ。
それがたとえ遠い道のように思えても、休まず歩む姿からは必ず新たな
道がひらけてくる。深い喜びも生まれてくる。

高い志や夢の存在こそが皆さんの行動を促し、その結果として、皆さんの世界を広げ、道が開けるのです。もちろん、努力してもその努力が報われない時はあります。苦しいことや悲しいことも経験していくことでしょう。しかし、そんな時でも努力することを怠らなければ、必ず道が開け、描いた夢に近づくことができるでしょう。ぜひ、この地球上でただ一人の自分を大切にして、可能性に挑戦し続け、頑張っている自分を見つけてください。そして、高い志を抱いて、誠実に、夢に向かって、堂々と胸を張って、自分の選んだ道を進んでいってください。浅田真央選手のように。

さて、保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。これまで、本校の教育活動に対し多大なるご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。まぶしいくらい大きく成長した子どもたちの姿を前にして、感慨もひとしおのこととお慶び申し上げます。これから中学校へ進み、心の悩みや葛藤もさらに多くなり、心配事は尽きないと思いますが、砂時計のように少しずつ人生の砂を積み上げていくお子様の姿を温かく見守っていってください。そして、砂がこぼれてしまったときこそ、そっと手を差し伸べるような親子関係を大事にし、お子様に寄り添っていただきたいと思います。

最後になりましたが、ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、本日はありがとうございます。今、こうして卒業生が立派に巣立っていくことができますのも、皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。今後とも、更なるご支援をいただきますようお願いいたします。

さあ、卒業生の皆さん、羽ばたきの時です。胸を張って、堂々と笑顔で飛び立ってください。最後の授業の式辞といたします。

平成２６年３月２０日
矢祭町立内川小学校長
大河原　久宗